

バストス週報

水紋 16

胸を打った文章

近頃読んだ文章「幻の陸軍少尉にはひどく胸を打たれた。この文章は、パウリスタ新聞に三月一日から二十数回にわたって連載されたものだから、多くの方がお読みになつたにちがいない。

筆者はルパンゴ島に舞臺してゐる元陸軍少尉の小野田寛郎氏の実兄、格郎氏を戦後の移住者ということだ。

昨年一月末、グワム島で横井庄一元陸軍五長が舞臺人に発見され、大騒ぎとなつた。その後間もなく、グイリッピン島のルパンゴ島で、元日本兵二人と、同地在のフリッピン軍人が小銃で撃ち合ひ、日本兵一人が殺され、一人は負傷した。ままた山中へ逃げ去つた事件が起り、日本人を驚かせたばかりでなく、世界中の人を愕然とさせた。

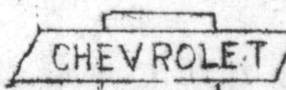
ルパンゴ島に残留した日本兵は、教名であつたが、後に投降した人があり、その人の言で、生き残つて抗戦をつづけてゐるのは、小野田少尉と小隊一等兵といふことが判明したので、日本の厚生省から捜査救済隊が派遣され、現地兵「空軍部隊」と協力して、一月もかかつて、マイクで呼びかけ、戦は終つてゐること、速やかに投降すること、生命の安全を保証すること、などが明らかになつた。にもかかわらず、反応はなかつた。

その報道を見て、ブラジルに居る兄の格郎さんが、居ても立つても居られぬ焦燥感に駆られるのは無理もない。格郎さんは弟に呼びかける意の文章を綴つて発表したところから、事情が判り、コロニアの話題としてひろがった。甚だ失礼な話だが、渡伯十年ぐらひでは、そのためのフリッピンに弟を捜しに行くなどというとは、経済的にむづかしいであろう。格郎さんの胸底を察して旅費の足しに送金してくる人も多かつたというのである。が二月も捜査に費やさねばならぬとあるを家業（花作り）の心配もあるだろうし、そう簡単に踏み切れるものではない。

そこへツニブラの赤川さんという方が飛行切符提供の申出があり、格郎さん、恐極まって落涙とどめやらす再訴したが、兄弟の声をきいたら寛郎さんも心なぐだらう。是非捜査隊に加つてくれと

第1195号
1380四十八年
四月十六日
日曜日発行
Director
Koiti Mori
Redator
Shion Oda
Rua Pres.
Vargas, 188
C. Post. 112
Fone; 40
BASTOS
Annual
Cr. #
30.00
Adi

Marvel-Mania Veiculos Ltda



自動車のお求めなら

条件のよい

御指定下さい

オバ

カミニオネッテ

カミニオソ

毎週水曜日マルベル・マリリア

バイクロス商会の出張員が

パール柳浦へ一日滞り

すから詳しく御相談下さい

好条件にて御取扱致します

出張員 瀬尾 清



格郎さんの文章は、弟捜しに出かける前後の事情から始まり、アラスカ経由の飛行機旅行中での感想、弟が高峯にかくれ、水中にひそんでも引き出さずにおくものかと、決心してゐる悲壯感もよくか

動させる。失意の心を抱いて帰る時のむなしさ、持など、涙なしに詠まれぬ程だった。

母に逢うため帰郷もせず、元の軍人仲間

の宴会もことわり、東京で一日の休養を

この頑固にもみえる心構が格郎氏の系

高な人格の表われであろう。

物見遊山に來たのではない、と心中藏

然と一線を引いてゐるあたり尊敬に値す

ろといつたら失礼になるであらうか。

止まないであろう。寛郎の鹿野郎ノ心
中幾度どなったであろう。その夜びに睡
さ出る涙が頬を伝ったのである。帰伯し
て、しばらくは心は虚しく、もの云う
のもいやだった。そうして、やつと心
を整理し、コロニアの好意にだけは、何
としても報告しなければならぬと筆を起
したのである。
「幻の陸軍少尉」である。

○記述によると、吾々には珍らしい
様子が詳しく描写され、写真も適当に配
置され、捜査の困難やら、現地の地形や
ら、が鮮明に描かれてくる。時々見る類
聞の記述では争柄だけしか判らぬが、肉
身の弟をさがす兄の真情を書かれたもの
だけあって、読みすてに出来ない情趣が
ある。

フリーリッピン側の協力もさることなが
ら、多くの軍人が銃を捉えて捜査する有
様に「それでは弟寛郎は、警戒して出て
来まじんまじ」と抗議したり、銃はやめて
拳銃に代えてもらったりする話。格郎式
捜査法が採用されないうで、がっかりする
話など、次々と関心をよぶ筋が多い。
格郎さんの記述によると、マイクで切
々と投降をすすめても、じつと聞いてい
る寛郎ではない。こっさ捜査隊を遠ざ
かってしまおうらしいので、兄の事も、本
人の耳には、はいつていないらしい。

格郎さんの指道するように、捜査の方
法もまちがっていろのかも知れぬ。
グリム島の横井さんは、偶然バツタリ
現地人と至近距離でぶつかった。格郎
格闘はしたが、横井さんは格闘が
ていたので、ねじ伏せられ、明へ
行かれた。

ところが、寛郎少尉の方は、食物
困らないらしく射は大丈夫で、
の中をかけめぐり、住居を決定しな
で、潜伏中を捕えることはできない。
然遭遇するより外はないが、相手は武器
を持っていてるので、格郎さんのよう
ならともかく、現地人なら再び打合
なり、逃がすか、殺すかの結果になる
ろう。

投降というのは、いやな言葉であるが
、投降せぬかぎり、或は投降を拒否する
限り、寛郎少尉を救助する方法はないと
いってよい。
○こういう悪条件の中で三カ月迫くも、
緊張の日々を送ったのだから、格郎さん
は、身心ともに、くたくたになつたであ
らう。否、身体の方は杜健でも、精神的
には参つたであろう。兄弟愛の力で必ず
時を待たせてみせると、気負っていただけ
に、失望も大きかろう。

ESCRITORIO KBAYASHI

営業 御案内

法律(民法・刑法・労働法)

シンシケート顧問弁護士

会計事務

デスパシアンテ

保険(生命保険・自動車保険)

農業保険・その他

外国人登録・師化手続

身分証明

所得税の申告を

おわすれなく

プレジデントテラルカス街一八九

小林事務所

主任 Dr. 石川雅宏

C.P. 一三〇番
FONE. 一〇五番
二八〇番

格郎さんの文章は、文章としても上位で
あり、あれだけ材料が揃っているもので、
よみものとしての索引力といつたものが
ぐんぐんと吾々の心を捉きつけ、バツの列着
が待ちどおしく、手にとれば、最初に「
日再び同じ地をくり返してよむ」
と、格郎氏の筆には力が溢れてい

フリーリッピンが独立国であるため、懸
念は云えぬが、格郎さんの云うよう
に、現地兵を混じらない民間人(日本人)
の捜索するのを許可してくれたら
、或いは成功するかも知れるフシもあ
る。投降ということばは、いやな言葉だ
と前述したが、寛郎少尉は絶対に降伏は
しないだろう。マイクの呼びかけを聞
かずには逃げても、困った相手だ
が、何とかして救助したいものである。
と、ああも頑固になるのである。た
ったしとりで死ぬまでルパン格島の密林
にひそんで抗戦をつづけなければならぬ
とは、何と惨酷な話ではないか。

○格郎さんの不結果の報告は大きく吾々
の胸を打つた。手記の本人も、いつ迄も
心残に鬱然たるものがあるうが、他人の
吾々にさえ、やりに切れないものが残るの
である。

死亡通知並に会葬御礼

母、池田ワイ（九十一歳）儀去る四月六日午前八時老衰の爲め永眠致しました。よって翌七日午前十時告別式を自宅を行い出棺致し、バストス墓地に埋葬致しました。

此の儀生前御厚誼を賜りました皆様にご謹んで御知らせ致します。尚葬儀に際しましては、御多忙中にも拘わらず、御遠路態々御会葬下され、目つ過分なる御香典並に御供花を賜わり厚く御礼申上げます。実は一々参上拝眉の上御礼申上ぐるが本意ですが、何分取込み中にての意を得ず、失礼乍の紙上を以て御礼申上げます。

一九七三年 四月 九日

喪主 池田 佐次郎

長男 謙司

妻 八重子

長女 楠ツル子

夫 繁男

次男 池田 一三

妻 繁子

次女 中山 松子

夫 安三郎

三男 池田 達

妻 和子

三女 杉枝 梅乃

夫 兼治

遺族 同

親戚 同

友人 同

バストス在会葬者各位 様

バストスP.L教会 様

バストス老人倶楽部 様

バストス仏教婦人会 様

バストス南米本願寺 様

バストス連合仏教婦人会 様

バストス連合仏教会 様

ラタク製糸株式会社 様

パリス夕刻支部佐賀県々人会 様

ウニオンⅡ男女青年団 様

ウニオンⅡ婦人会 様

ウニオンⅡ第一組 様

ウニオンⅡ 区 様

ろような眼つきで空をふり脚ざ、いつの間にか昭子と一緒に来た方角へ戻り始めていた。不思議なことと思つたが、この寒むいのに外食なしでは風邪をひくにきまっていた。そういって引き止めれば意地になつて薄着になつて飛び出して行く性格だという。ことは、夫と結婚して二十年の間、身にしみて知っていたから、昭子は黙つて一緒に歩いてきた。この気むずかしい男に對しては姑はずつと腫物に色わるようにして善して来た。いわば姑の過保護から、少年のときの我儘を年をとつても持ち続けられてきた男なのである。このままうまく一緒に暮らせば、姑が喜んで急いで温かい家の中へ迎え入れてしまふだろう。仕事も何もない気楽な身の上で、雪の日に外出しなければならぬ用事などない筈だつた。

「今日はねえ、お爺ちゃん、蟹を買つてきたんんですよ。北海道の毛蟹ですよ。信利さんが好きでしよう？ お爺ちゃんもお好きでしたねえ。」

「はい、大好きです。」
「冷凍ですからね、今夜は無理ですけど明日の昼にはお届けできますよ、二匹買って来ましたから。雪が積ればいいですわね。」

男は昭子の語りかけには応ぜず、次第に遠慮になつて、家が見えなくなるともう昭子を振り向きもせず、一足先に門の向へ消えてしまつた。昭子はうつつすらと雪化粧をした道端に袋をおろして一息ついた。男の消えてしまつた立花家の小さな門を眺めながら、あれが明治の男というものかと思ふ。小さな男を覚えていた。この男が手助けをしようとし、六尺豊か大男の男が手助けをしようとし、年寄りも持っている。男の傲岸さといふものが今以つて許し難い思いがある。毛蟹を二匹買って来た。明日は届けるなと、余計なことを言つてしまつたことを後悔して、畜物價の値上りは天井知らずで、大きな毛蟹を二匹買うといふのはサラリーマンの家庭では大変な費である。去年の暮から冷凍庫を買つてあるのと、冷凍食品は一月でも二ヶ月でも保存がきくところから二匹も買ったのであつて、庭つづぎの家に住んでいる男たちに届けるつもりなどは買うときには毛頭なかつた。男から折につけ職業婦人などという古い言葉で嫌々みを言われ続けてきたことを、ほろ苦く思い出した。世間では嫁と姑の關係がよく問題になるが、昭子の場合はむしろ口うるさい男と昭子の間に姑が仲をとつてくれたのは方が多く、立花家を構いびりをしたの

RAÇÃO OUTRA

ラツソングツトラ

養鶏危期を乗り切る優秀飼料

飼料をお選びなさい

栄養点でも

経済点でも

安心して使用できる

ラツソングツトラ

前山商店

養鶏飼料部

販売部

佐藤 豊

木口 常治

藤武 良郎

男の茂造の方である。

人通りの少ない小径には薄雪が濃く降り始めていた。昭子は、蟹を惜しむあまりに男に苛められた古い記憶を思い出している自分に苦笑して、よいしょと小さく掛声をかけ、勢いよく買物袋を持ちあげ、足早に門の中へ入つて行つた。鍵で玄関の戸を開けて入ると、部屋の中は無人で火の気もない。土曜日というのに、敏は高校の補習授業のせい、か帰りが遅い。昭子はまず石油ストーヴに火をつけ、オーヴアを着たまままで家の中をあとこち片付け出した。一週間分たまりにたまった家事雑用は、土曜日の午後から夜中まで片付けてしまふのが共嫁ざし。昭子の家政方針であつた。キリスが日曜日を安息日にきめたのは偉大な功徳だと、昭子はキリスト教徒でもないのに、そう思っている。日曜日に家事を精進力を使い果すと、月曜日から疲れが出て、結局は家庭も職業も両立しなくなつてしまふ。両立させる鍵は、土曜日の午後にはどんな誘いも断つて、デパートの地下にある食品売り場へ出かけて一週間分の食料を買い込むことだ。と昭子は思つていた。このところずっと日本では、ブームが旋回して、土曜から日曜にかけて二日がかりで山へ行つたりする

(筆者 有吉佐和子)



RAÇÃO Cargill

"CRESCER-AVES" — RAÇÕES

Rua Presidente Vargas, 431 Fone

BASTOS

北米に於て、ミーリオの世界的取引高を

◆ ラツゾン カルジウ の ◆

→ 販売配給倉庫を設けました。

☆ 養鶏家各位の御愛顧を御願ひ致します。

→ ○ 米 優秀品質のミーリオ種子の予約注文引受ます

桑原一山内共営

販売員参上の節は、宜しく御引見のほどを

お願い致します。

御案内

野村博士の養鶏講演会開催について

養鶏家の皆様には益々御健勝にて御活躍の事とお慶び申し上げます。

このたびはアメリカ家禽学会に特別講演会のため、日本生物科学研究所より野村吉利博士が来伯されます。野村

東京大学獣医学科を卒業後、日本生物科学研究所にて、動物用ワクチン製剤の研究に没頭、数々の秀れた成績を世界に発表して、学位を得られた世界に有名な先生でございます。

この機会を利用して、バストスの皆様にも是非、懇談の一時をもちたいと願い出しましたところ、御多忙にも拘らず、快く応じて下され、左記の要領で講演会を開くことになりました。

ニューカッスル病が猛威をふるう昨今、先生の講演はまことに意義あるものと感じます。

どうぞ多数御出席下さいまして皆様の今後の養鶏に役立てていただき度く、御案内申し上げます。

記

日時 四月十八日(金)午後三時より

場所 バストス総合会館

講師 日生研副部長

野村吉利博士

内容 日本に於けるニューカッスル、ワクチン接種プログラムと、撲滅対策

主催 EATTEC 社
後援 バストス農村シンジケート
バストス文化協会

おしらせ

バザール

期日 五月十二日(金)十三日(日)

午前八時から午後十時まで

場所 カトリック教会の横のサロン(旧教会)

目的

初聖体準備中の子供たちの為の教材、運動競技費、などに使用いたしますので、皆様の御協力を心から御願ひ申し上げます。

尚、十三日(第二日曜日)午後四時から、日本語の御ミサが、尾崎神堂によって捧げられます。

当日は、母の日もあり、特にお母様方へ感謝のための意向においてでございますので、皆様おさそい合せ、お出掛け下さいませ。お待ちしております。

カテキスタ

おしらせ

日本語のミサ

日時 五月十三日 午後四時

場所 イグレス・サンフランシスコ
シマビエル教会

尾崎神堂により、日本語でミサを行います

まよいユービン

受取人

Kikuyuki Ogawa

Fumiko Morita

Massayoshi Ubukata

Kazshiro Sato

Yukio Ikeda

Satuki Yoshida

送付人

BANCO BANDEIRAS DES.

Casa Perambucana, S.P.

Penau Ltda. ヲリッ

水道 11-11-29

在 週報社

「好き嫌いを讀んで」

リホリス市 高橋 鏝 骨

四月二日発行のバスト又週報の「好き嫌いの記事」中、糸音さんが、其の弟さん、お母さんを手こずらし、と書いてあるが、弟さんを憫ぶ心持が、あとの文言、今はどうしているか、に、あながた、パン島に九十日間、弟を、殺しあぐねて、空しく帰った兄の、小野田さんの事をも連想されて、胸をひきしめられる思いをした。

私も小さい時から好き嫌いがあって、糸音さんの弟に負けぬ位で、未亡人で苦勞して六人の兄弟を育てて呉れた母親を、随分困らしたものである。私は、男では三人目で、小学校へ上った時から、とても病弱で、医薬に頼る事も、母は心をつかって大事にして、くれ、私の云うが、促に食物を作り、私の残食を通してくれたので、終には、それが昂じて、達者になつてからも、我々のし放題。母に不孝の限りを尽したものである。

私がまだ病弱の頃、鳥賊の煮たのが欲しいといつて、ゴネだした。その日も熱があつて、床の中でそれを訴え続けたのである。仕方なしに母は買つて来て、やるといつて、町の入り口にある飲食店に走つた。といつても、町までは一キロもあるのだ。どんなに急いでも、往復では二十分はかかる。我俣な私は、数時間もかかた様に思ひ、熱があるのに床から抜け出し、フラフラする躰で母を迎えに出かけた。飲食店に着いても母とは逢わないので、すこすこ帰つたら、母は早く食べさせようと、近道を辿つて帰つたところ、抜けがらの寢床を見て驚き、大騒ぎで捜している処であつた。

此のように口いやすい私も、ブラジルへ来てからは、糸音さんも経験されたといふ彼の乾肉や、ポレンタで命をつながなければならなかつたとは、或いは母に不孝をしたバチが当たつたのかも知れないと思つてみるのである。

ポレンタといへば、伊太利人の婆さんから、新移民の時教わつたが、彼等の作るポレンタは、奥にのこしい。何故ならば、不衛生な為、ポレンタを作る時には、油の論マンテイガなども、沢山入れて、油の論マンテイガなども、沢山入れて、その間は、かかつて、煉りまわすので、日本に通りにすれば、同じ様に、只、塩だ、本人は材料を換約して、只、塩だ

金一封 御 礼

去る三月廿日、御令嬢の誕生祝いに、当教団建物を御使相に、厚く御礼申し上げます。御礼申し上げます。

佐藤 博隆様

PLバスト又教団

金一封 御 礼

故石橋長児様御他界の御り香典返しとして御寄付下さいました、厚く御礼申し上げます。

石橋 敏子様

PLバスト又教団

金一封 御 礼

御母様の御逝去の御奇贈頂誠に有難うございました。

池田 佐次郎様

PLバスト又教団

金一封 御 礼

御母堂ワイ様の香典返しとして有難頂戴しました。

池田 佐次郎様

バスト又連合仏教会

金一封 御 礼

御母堂ワイ様の香典返しとして拝受、厚く御礼申し上げます。

池田 佐次郎様

バスト又連合仏教婦人会

け混ぜて煉るので、出来上つたポレンタ食べた代物ではない。ああいう粗食で、食べて重労働に耐えたのだから、人間の生命力の偉大さに今でも感心する。私は、ポレンタは伊太利人を真似て、食べられる様なものを作るので、今ではとても好きになつた。次にマカロンだが、マカロナーダは、張り私の好きなものに数えられる。先年二回に亘つて訪日した際、日本の生活に向つて、四、五十年も外国に生活すれば、日本食は駄目だろうといつて、気がつかつてくれる。そこで即座に、何もいらない、只、できたろうどんや、そばを食わしてくれれば結構だといつたので、私は半信半疑で作つてくれた。私は、日も明後日も、朝晩毎日でもいい。うまさうに食べるので、私のうどん好きに驚き乍ら、かえて手や、やかかからない私のうどん好きを、歓迎してくれ。最後に、焼き鳥の串にふれておく。東京の甥が、今日は浅草へ行って、焼鳥を叔父さんに御馳走しようといつて、連日行つてくれたが、成程看板に偽わりのしと思つたのは、店の前から焼き鳥の実

おいしそうな焼鳥の料理の香りである。ところが食べる段になつて、香りとは似ても似つかない味に吃驚した。というのには、それは中身まで香りや味がしみ透つていないのである。

ブラシルでは、シユラスコ、牛、豚、鶏等を焼くときは、数時間前へ或は一晩中にレンペーラといつて色々の味付をして置き、その中へ肉を漬けて置き、必要に応じて焼くのみだから、外も中身も全く同じ味で味わえるのだから、とても日本の焼鳥とは比較になる筈がない。

吾々在伯五〇年組には矢張り何といつてもフエジヨア、シユラスコ、マカロナータなどが一番おいしいブラシル食だと思ふのである。

おわり

マテランジア通信 4

西村英一

「コントラバンド」
 コントラバンドは密輸のこと。此の地方の人は、コントラバンドは犯罪でなく、スリルに富んだスポーツである位の觀念を持つてゐる。また、コントラバンドが最高額で、銀行のなか、た頃の話、何処の誰やらは三十キロ持っている。誰それは五十キロたまつたさうだと、金高を目方で呼んでいたが、密輸でボロもうけした話です。

ある町の小学校で、先生が生徒に囁々に父親の職業を聞いたら「コベルシアンテ」「バルベイロ」と答えて行ったが、一人の生徒は「コントラバンド」と平気で答えた位、家庭でも密輸をやる親が、子供の前で、自分らの仕事ははずべき行為でないと思つて、話しているにちがいない。しかし、密告者は、仲間から制裁を受ける不文律はあるようだ。

私が来た頃は、ブラシルとパラグワイの為替相場は、一対一であつたが、クルセイロが毎年下落して、現在では一対四〇と、ブラシルの金が弱くなりましたから、今ではパラグワイ人がブラシルで買物をすれば安いと思つて時代です。

観光客がパラグワイで買つてきた品物が、後で見るとブラシル製であつたといふ笑話もありました。

密輸の取締りは、だんだん厳しくなる。そうなるに、密輸品の賄値は高くなる。高くなれば密輸業者は益々やめられんといふことになる。時に銃弾の下をくぐり、胃腸がスリル満点のスボーツのような錯覚をおぼすものであるらしい。

密輸のボスはサンパウロで悠々と晝寝をしてゐるが、つかまるのは下端の役目没収された車や物品は、毎月発売に附

される。トルコ商人はよく競売品をわう。たとえは、エスケイロ百個落札して大蔵省の受取をもらうとけば、この品物に関する限り、一生無税のからくりをやる。虎のおとした獲物をねらうワシのようだが、ずるい奴だ。

そして、表では役人と握手して暗計を百個せしめてゐる。かも知れぬ。大きな密輸団は飛行機何台も使用してゐる。先輩の五右衛門氏が何百年も昔に豫言した通り、又ソカ、アカバ。

(第一信終り)

フエジヨンの大豊作

フエジヨンが一キロ四コントもするのので、家庭に大恐慌である。昨今多少のつたようだが、まだまだ足りない食品もある。

ボンフインの藤本さんといへば、篤農家として知られてゐるが、西瓜作りをして大もうけをして、その裏作にフエジヨンをまいた処、これが大当り。

十アルケールのフエジヨンがよく出来て、一アルケールから五十俵、十アルケールで五百俵。

一サツコ三百ケル、ペイロとして、十五万ケル、ペイロスというから、ロツテリア、エヌポルキーバより、いくらか歩合がわるいが、近來の大もうけである。

バストスにもこうした、すぐれた篤農家のあることを知つていた。だいたい、但しこの話、佐々木南天子の酒の上のホラであるから、どこから、どこまでかほんとうであるか、保証はいたしかねる。

会葬 御礼追加

池田 佐次郎

コチア産業組合バストス倉庫様

右の御名が、会葬御礼広告に書き落しておりましたことをおわび申上げ、裡心より御礼申上げます。

御 礼

御母堂ワイ様の香典返しとして御高踏下さいました。厚く御礼申上げます。

ウニオシ 様

池田 佐次郎 様

御 礼

金 一 封

御母堂ワイ様御他界の御り香典返しとして御高踏下さいました。ありがとうございました。御礼申上げます。

ウニオン 婦人会

池田 佐次郎 様

四月十七日(土) 十八日(日) 両夜とも八時
 博奕打段り込あし 監督 小沢茂弘
 然天 鶴田浩二 外務省 記反

おとわりの戦争と人間せんそうとにんげんのサンバウロ公演が、日のべに、日のべで、又一日おくれま
 四月二十日(金) 八時 一日限り
 久保 明 桐野洋雄 監督 本多猪四郎
 佐原健二 田島義文 特技監督 岡谷英二
 A・ヒューズ 田崎潤 製作 田中友幸

お待たせ致しました。特選名画いよいよ上映決定。お見逃しのないよう、
 四月二十一日(土) 九時半・二十二日(日) 九時半 上映時間、三時間四十分
 日活 監督 山本薩夫
 然天 原作 五味川純平
 然色 協力 俳優 座・文学座
 長編 劇団民芸

Aviso de Cine Pastos

世界最高の長編文芸ロマン。無限の感動とスゲールで描いた話題の超大作
 「戦争と平和」「風と共に去りぬ」を凌ぐ大スケールを持つ大河小説(原作
 五味川純平)を映画化したもので、軍国主義台頭の昭和初期から、昭和
 二十一年までを背景に描いている。次第に不吉な暗雲に包まれて行く満
 蒙を舞台に、そこに野望を賭す財閥伍代家の人々を中心、ロマンは歴史
 とからみあい、雄大なシネフォンのように響き合せて、日本映には珍らしい程
 の戦争ロマンが展開される。果して、原野を染めた満州の夕日に、人間の愛と
 命と戦いが音を立てて燃えさかる。……山本薩夫 芦田信介・石原裕次郎・伊藤雄之助・
 江原真二郎・高橋英樹・滝沢修・滝田裕介・田村高広・丹波哲郎・中村錦之助・中谷一郎・二谷英明・
 藤岡重慶・山内明・浅岡ルリ子・青田今日子・栗原小巻・水戸光子・横影景・三億五千万円
 四月二十三日(月) 八時 一日間限り
 東映 石山嘉三郎・渡辺文雄・山城新伍・青山ミチ・大木実・安部 倫
 天然色 シネマの殺し屋が日本へ上陸、「日本任侠娘さん」とも

日本が海に開かれた時代

山崎 正和

室町時代のめざましい特色は、このとき島
 国日本が海に開かれて大きく開かれていたとい
 ことである。平安朝の遣唐使、平清盛の対宋
 貿易につづいて、足利義満は新興の明国との間
 に正式貿易の道を開いた。やがて瀬戸内海から、
 関門海峡にかけての波の上には、大名や大寺院
 の名を冠した千石船が何隻も往来する姿が見か
 けられることになった。鎌倉幕府、江戸幕府がと
 もに海外に閉鎖的であったのに較べて、秀吉を
 含めて京都の政権がはずれも海に向って開かれて
 いたのは、面白い偶然だといえようである。
 皮肉にもこうした活発な海外進出をうけがし
 たものは、ひとつには室町幕府の政治的な弱体性
 だと考えられている。第一に、この政権は全国
 地に対する支配力が弱く、国内からの十分な
 歳入を期待することができなかった。華やかな
 文化活動を支える資金源としても、どうしても、
 海外貿易による巨額の利益をあてにしなければ
 らなかった。
 第二に、当時の瀬戸内海や九州沿岸には海軍
 台とする強力な豪族がおり、これが「倭寇」とな
 て密貿易を行うのを幕府には鎮圧するだけの
 力がなかった。結局、彼らの技術や経験を自分の
 手もとに受け入れて、みずから貿易に乗り出す
 幕府にとって一石二鳥の解決策であった。

もっとも、貿易とはいえこの時代のとく、日本
 とつては、完全なる経済交流というより、一種の積
 報交流であったことを忘れてはならない。木綿のよ
 うな基本的な資源も大陸から輸入されたが、それ以
 上に仏典や美術品やさまざまな珍宝類が送りこま
 れて来た。大名たちは競って朝鮮から「高麗版大藏経」を求
 めようとした。將軍から大商人に到るまで、珍しい大陸
 の書画や骨董の蒐集に熱狂した。そうした唐物蒐集
 の趣味の手引書として、將軍の側近では「吾台観左右帳
 記」という秘伝の書物すら書き残された。かつて平清
 盛は「太平御覧」という百科辞典を輸入したが、室町
 実力者も知的好奇心には海によって隔絶されてい
 た日本人は安じて海外へ関心を第二に文化的情報に向
 るのが常だったといえる。だが、こうした輸入文化との
 大量の接触は、互に日本人の間に一種の文化的ナショナ
 リズムを醸成させていった。村田珠光は早くから和漢の
 趣味の融合を説いていたし、後に茶の世界では意図
 的に大陸の趣味とは異なる美が求められるようになった。
 水墨画の分野でも、日本人は牧翁という中国の
 異端の作家を好んだが、やがて雪舟のように中国に渡
 り乍ら、自然のほかには学ぶべき師はないと広がり
 る画家が現われることにもなった。

そして、慶長五年六月十二日、若狭の
 一隻の異様な外国船がたどりついた。圖書
 、象牙孔雀や鴉片を積んで来たこの奇怪な船は、
 日本が史上初めて迎えた南蛮国の船であった。
 船名は「サンバウロ」で、船長は「バウロ」

台とする強力な豪族がおり、これが「倭寇」とな
 て密貿易を行うのを幕府には鎮圧するだけの
 力がなかった。結局、彼らの技術や経験を自分の
 手もとに受け入れて、みずから貿易に乗り出す
 幕府にとって一石二鳥の解決策であった。

船名は「サンバウロ」で、船長は「バウロ」